

短期合格を目指す速修学習法

行政書士の仕事

建設業・不動産屋・飲食店などの営業許可申請や更新に関する手続や、外国人の帰化や在留許可に関する手続などは、法令等の規定に則り、必要な書類を正確に作成し、添付書類を不備なく集めて、官公庁へ提出し、受理してもらわなければなりません。

こういった行政手続は、本人でも行えますが、煩雑でわかりづらい作業であるため、行政手続の専門家である行政書士が必要とされています。イメージとしては、裁判手続は本人でもできるが、わからないから裁判の専門家である弁護士に依頼するのと同様、行政手続も自動車の免許やパスポート申請程度であれば本人で申請しますが、自分ではわからない複雑な手続になれば専門家である行政書士に依頼するわけです。

また、近年は、遺言相続に関する相談（例えば、遺言書や遺産分割協議書の作成に関する相談）や消費者問題に関する相談（例えば、クーリングオフや契約解除に関する相談）などを専門分野とし、市民に身近な法務相談の専門家として活躍されている行政書士の方も増えてきました。

さらに、行政書士は、株式会社・有限会社やNPO法人の設立に関連する業務も行っていますので、自分のキャリアと行政書士資格の双方を活かせば、創業段階からの相談相手として、起業家支援を含めた経営サポートやNPO法人の運営サポートといったコンサルティング業務を展開していくことも可能です。

行政書士資格取得後の展望

行政書士資格は、初めて法律に触れる方でも1年程度の学習期間で合格レベルの力がつき（予備校を利用する場合にはもっと短い学習期間で合格レベルの力がつきます）幅広い法律科目の基礎知識が問われる試験であるため、法律系国家資格の登竜門ともいえ、ダブルライセンスを目指す方、公務員試験の受験や法科大学院への進学も考えている方にも最適で、その資格単体でも独立開業することが可能な資格です。

（ケース1）ダブルライセンスを目指す！

資格業の実務の観点からは、行政手続という幅広い間口を独占業務に持つ行政法務のゼネラリストである行政書士の資格に、労務のスペシャリストである社会保険労務士の資格や登記のスペシャリストである司法書士といった資格を組み合わせることで、業務に奥行きを持たせることができます。その他にも、中小企業診断士の資格と組み合わせれば、行

政手続にも精通した経営コンサルティング業務を展開することも可能です。また、学習の観点からは、公務員試験や宅建試験などの試験科目が重複する他資格の学習にも応用できます。

（ケース２）公務員・法曹を目指す！

TACの行政書士講座では、ムリ・ムダを省いた効率のよい学習ノウハウを提供すると同時に、主要科目の憲法・民法・行政法は時間をかけて基礎からじっくり行いますので、将来、公務員試験の受験や法科大学院への進学も考えている方には、法律の勉強に対する適性のチェックや基礎力の育成としても最適です。

（ケース３）独立開業を目指す！

本来、行政書士資格は独立開業型の資格ですので、ノウハウを蓄積し、その気になれば、行政書士資格単体での独立開業も可能です。自宅を兼事務所にした開業（ＳＯＨＯ型の独立開業）も可能であり、他の職種に比べ、少ない費用での独立開業が可能な点も魅力の一つです。また、資格取得後の登録期間に制限がないので、若いうちに資格を取得しておいて、家事・育児・仕事にある程度の目途がついた時から実務を始めることも可能です。

行政書士試験の特徴

１．試験概要

試験日	10月第4日曜日（10／23）を予定
受験資格	なし
試験科目	1.法令科目（40問） 行政書士法（行政書士法施行規則を含む）憲法、民法、行政法、地方自治法、行政手続法、行政不服審査法、戸籍法、住民基本台帳法、労働法、商法、税法、基礎法学 2.一般教養科目（20問） 範囲指定なし
実施方法	1.法令科目 35問 - 5肢択一式（1問2点） 5問 - 記述式（1問6点） 2.一般教養科目 20問 - 5肢択一式（1問2点）
合格基準	1.法令科目 100点満点中 50点以上の得点 2.一般教養科目 40点満点中 20点以上の得点 3.上記 1.及び 2.の条件をクリアし、合計 140点満点中 84点以上の得点

上記記載は、2004年試験の出題科目・合格基準に関するものです。

2 . 2004 年度試験科目別出題数

法令	択一式	記述式	一般教養	択一式
基礎法学	2 問	-	国語	6 問
憲法	5 問	1 問	社会	11 問
行政法	9 問	2 問	理科	1 問
地方自治法	3 問	1 問	数学	2 問
税法	2 問	-	2003 年度試験までは、行政書士法も記述問題が出題されていたので、今年度試験でも記述式での出題には注意。	
行政書士法	3 問	-		
民法	5 問	1 問		
戸籍法	1 問	-		
住民基本台帳法	1 問	-		
商法	3 問	-		
労働法	1 問	-		

3 . 2004 年度試験合格率

受験者 78,683 人、合格者 4,196 人。合格率 5.33%。

4 . 行政書士試験の特徴

- | | |
|------------------|---------------------|
| (特徴 1) 科目数が多い | 効率のよい整理が必要 |
| (特徴 2) 一般教養がある | 法令科目とのバランスの取れた学習が大切 |
| (特徴 3) 絶対評価 | 競争試験ではない |
| (特徴 4) 論文式ではない | 深く掘り下げた学習までは要求されない |

2005 年度試験短期合格のための対策

Strategy

満点至上主義からの脱却

... 満点を取るための勉強と合格するための勉強は違う

今ある知識を使って正解にたどりつく力の向上

... インプットとアウトプットの効率的な繰り返し

知識の量ではなく、知識の精度で勝負

... 細かい知識ばかり追うのではなく、基礎知識を確実に習得

合格のために必要な知識の選別

... 講義を利用することが効率的

アウトプットのためのツールを準備

... 講義回別、科目別、試験範囲全体の3パターンの問題練習ができる環境（過去問＆新作問題）

10月23日までの学習スケジュール

... ~7月中旬	憲法・民法	教養（社会）
7月中旬～	行政法／書士法	
8月中旬～	諸法令	教養（国語）
9月中旬～	答練	
10月～	直前学習、弱点補強	

T A C 速修本科生の特徴

ワークシェアで時間と費用を有効活用

... 今年度試験合格のための学習をするにあたり、必要な情報の選別や情報提供、問題練習のためのツールの提供はノウハウのある予備校に任せ、実際に問題を解く作業や暗記の作業などの自分でできることは自分で行い、予備校の講義はインプット中心に利用し、アウトプット教材を自宅学習用として活用することによって、自分の学習スタイルに合わせて学習を進め、直前期には、本試験レベルの模擬試験（答練）を本試験と同じスタイルで解く練習をする。

T A C がこだわる合格のための思考

... カリキュラムにこだわる（パンフレットP10）
講師にこだわる（パンフレットP12）
教材にこだわる（パンフレットP14）

選べる受講形態で自分に合わせた学習スタイルを確立

... **教室講座／ビデオ講座**（パンフレットP20参照）

実際にT A Cに通って学習するスタイル

振替受講制度（手続不要、校舎問わず）などの欠席フォローもあり、日程の合わない時のフォローも万全

通信講座（パンフレットP30参照）

Web通信講座で自分のペースで学習するスタイル

質問メールで講師への質問ができるので、質問対応も万全